

ID No.	2062
研究課題名	肝外胆管癌の発症と進展を制御する因子の解明
研究代表者	中川 勇人 (三重大学・教授)
研究組織	
受入教員	平田 喜裕 (東京大学医科学研究所・准教授)
研究分担者	早田 有希 (Fox Chase Cancer Center・研究員) 川村 聡 (東京大学・特任臨床医) 黒崎 滋之 (東京大学・大学院生) 松下 祐紀 (東京大学・大学院生) 山下 綾 (東京大学・特任臨床医) 名富 久義 (東京大学医科学研究所・大学院生)
研究報告書	
肝外胆管癌モデルであるK19-creERT;LSL-KrasG12D;TGFbR2f/f;CDH1f/f(KRTC)マウスを作成し肝外胆管に浸潤性の発癌とIL-33、SOX9、Ki67の発現増加を認めた。またK19-creERT-LSL-tomatoマウス系統を樹立し、タモキシフェン誘導後の胆管よりtomato陽性細胞をFCMによりソートし、オルガノイドとして三次元培養し、RNAの分離、q-PCR、免疫染色によってK19陽性正常胆管幹細胞の性質を明らかにした。KRTC系統を高脂肪食下で飼育し、早期に死亡する個体がみられることが明らかになった。一方抗生物質投与によって、糞便中Enterobacteriaceaeの減少とともに胆管病変の改善がみられた。胆管周囲付属腺特異的なマーカーを同定し、特異的な遺伝子発現制御モデルの開発を開始した。	